

LM corsa

OTG MOTORSPORTS × INGING MOTORSPORT.

RESULT 17th

ENTRY 29台 出走:28台

60

OTG
MOTORSPORTS

GT300



A.Iida



H.Yoshimoto

WEATHER 6日:晴れ／ドライ 7日:晴れ／ドライ

CAR SYNTIUM LM corsa RC F GT3

General comment

AUTOBACS SUPER GTシリーズの第5戦、「FUJI GT 300km RACE」が富士スピードウェイで開催され、今シーズン一番とも言える猛暑の中で、激しいバトルが繰り広げられた。

LM corsaが飯田章と吉本大樹に託した「SYNTIUM LM corsa RC F GT3」は、序盤の2戦でしっかりと完走を果たしてきたものの、前回のSUGOでは接触があってラジエータを破損。メカニックによる素早い作業でコースに送り戻されたが、あと5周足りずに完走扱いとはならなかった。しかも、その足りない5周は終盤に赤旗が出され、予定より早く終了となった、まさにその周回にも相当。もしレースが再開されれば、貴重なチームポイントを獲得できていたはず。

しかし、レースの世界に「タラレバ」は禁句。わずか2週間のインターバルだったものの、ドライバー、チームともに気持ちはすっかり切り替えて富士に臨んでいた。不運な結果に終わったとはいえ、前回のレースからフロントタイヤのサイズ変更が認められ、高荷重対応が可能になったことで信頼性は大幅にアップ。そのことが影響したのかは定かではないが、重大なトラブルに見舞われることもなくなってきた。長いストレートを持つ富士では、どうしても苦戦は必至ながら、「絶対に完走は果たそう」そ



れが全員に共通した目標だった。

土曜日の早朝から行われた公式練習は、飯田のドライブから始められた。開始からすぐにストップ車両があり、赤旗が出されるもすぐに再開。1分40秒を切ることがターゲットとされるも、なかなか果たせず飯田は我慢の走行を強いられる。いったんピットに戻ってセットチェンジを行い、その後に40秒710を記録し、さらに短縮することが期待されたものの、直後に二回目の赤旗中断が。これでせっかくのリズムが断ち切られてしまう。

再開後も飯田はドライブするも、1分41秒台に乗せることも、なかなかままである。そこで吉本と交代し、同じように力走を見せるもタイムは今ひとつ。41秒585が吉本のベストタイム。



予選結果

28th (1'40"985)



公式練習が行われていた時も暑いには暑かったものの、予選は2時過ぎからのスタートとあって、それ以上。アナウンサーが路面温度の50度超えを伝えていたほどだった。今回はQ1担当を飯田に改め、「SYNTIUM LM corsa RC F GT3」は早々にピットを離れていく。猛暑を見越していたことからタイヤは、ミディアムとハードが用意されていたうちのハードをチョイス。そのため、ウォームアップにはアウトラップだけでなく、さらに2周を充てた後のアタックとなつた。

早めのアタック開始は、ある意味で正解とは言えた。1分40秒985を記録した後、コース脇に停止した車両があつて、赤旗中断となつていていたからだ。しかし、Q1突破のボーダーが38秒台後半であつては、到底届かぬと飯田もチームも判断。残り4分強での再開となるが、ピットを離れることがなく、28番手での予選終了となつた。



決勝結果

17th (61 laps)



レクサスRC F GT3がウェットコンディションとのバランスがいいことは、これまで伝えてきたが、もはや誰もが雨乞いでもしたくなつてはいたのではないだろうか。それぐらい、いつまでたっても猛暑に衰えはなく、日曜日も路面はまさに焦がされるような状態に。だからこそ、サバイバルゲームの様相を呈する可能性も、十分にあった。

早朝のフリー走行を、まずは飯田が担当。2周の連続計測の後、インアウトを繰り返し、また2周したところで、「SYNTIUM LM corsa RC F GT3」のステアリングは吉本に託されることとなる。しかし、1周だけで戻ってきたばかりか、メカニックが慌しく動き始めるではないか。シフターにトラブルが発生したため、その後の走行は許されなかつた。些細なトラブルとはいえ、これがもし決勝レースの最中に出ていたなら……。後に誰もが認めるが、まだツキに見離されてはいなかつたのだ。

今回のスタート担当は、開幕戦以来となる飯田。予選同様、路面温度



50度オーバーの状況下で、激戦の火ぶたが切られることとなつた。案の定、というか序盤からトラブルを抱え、大きく順位を落としたり、ピットに戻つたりする車両が相次いで、そのつど順位を上げていく「SYNTIUM LM corsa RC F GT3」。24番手まで浮上した17周目から、セーフティカーランが行われることに。1コーナーでの接触でダメージを負つた車両が、2コーナーの立ち上がりでボンネットを、コース上に飛ばしてはいたためだつた。

このSCランは5周にわたつて行われ、トータルで20分近くに及ぶこととなる。そして、ピットレーンオープンとなつた23周目には、多くの車両がドライバー交代を行うが、上位陣の大半や飯田はコースに留まることに。そして34周目、ようやく吉本に交代する。このロングスティント作戦もまた的中。SCラン前に先行していた車両の数台をかわすことになつたのだから。その後も、早めの交代が災いして、タイヤが音を上げる車両が相次ぎ、57周目には16番手にまで浮上した。

ラスト2周で残念ながら一台に逆転を許し、「SYNTIUM LM corsa RC F GT3」は17位でのフィニッシュとなるのだが、トップから1周遅れに留めたこともあり、チームランキングに貴重な3ポイントを加えることになつた。次回のレース、鈴鹿1000kmは車両こそ異なるものの、2014年に飯田と吉本が優勝を飾つてゐるだけに、何かミラクルが起ることも期待したい。



Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

今年、我々は完走を最大の目標としていて、確実に完走してチームポイントを得ることが課せられている最大の使命です。飯田選手も吉本選手も粘って走ってくれたことで、トップから1周遅れで済み、3ポイントを獲得することができました。こういうレースを続けていくことを、これからも心がけます。実は朝のフリー走行で小さなピンが外れて、シフトが機能しなくなっていましたんですが、これがレース中なら、たぶんアウトでしたから、そこで起こってくれて非常に助かりました。次回のレースにはドミニク・ファーンバッハが加わります。彼はいいアベレージでコンスタントに走れるドライバーで、我々の目標も理解してくれているので、ものすごく期待しています。

Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira
Iida<http://akira.jp/>

レースらしいレースはしていないけれど、今季最上位でゴールできました。淡々としたレース運びで、まあまあのレースでしたが、チームとして全員で精いっぱい力を出し切って、この順位でゴールできたので良かったです。他力本願で、まったく棚ぼたでしたけど、チーム力で乗り切った感じです。

Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

セーフティカーがけっこう長い間入ってくれたおかげで、1周遅れで完走できたので3ポイント獲得でき、本当に良かったです。朝にトラブルも出て、それが決勝に出なかったのは運とかツキもあったのかな、と。富士では本当にしんどいんで、もっと辛い展開を覚悟していたんですけどね。決勝ではトラブルも一切出ずに完走できて、いま持っているすべての力は出せたと思います。

